

講演を聴かせていたときから乳幼児期に小さい  
体験が子ども達に十分得られるように私達保育士が何が  
できるのか考えさせられました。

講師の先生の言葉の中に遊びが充実してこそには必ず  
学びがめざしていることを念頭において身体を使って実際に  
五感で感じながら頭を使って試行錯誤ができるような  
環境を与えていけるようにしっかりと考えていくことが大切だと  
実感しました。また自分自身が遊びを通しておもしろいという  
感覚をいつまでも忘れないように子どもと一緒に子どもの  
目線を感じずらなさを持ち続けたいと思います。



## 講演会の感想

先生が研究されている 砂場 あそびでは、実例・写真などを見ることができ、わかりやすく、楽しく聞く事ができました。

特にムービーを見て先生が詳しく子どもたちの様子や心情について話された時には、指の動き・足の位置・座り方など様々な姿から子どもの心情をお話しされていきました。

先生のお話で「はっ」としました。何気ない動作にも心情をくみとらうとする先生に気がかせて頂けたように思いました。

日々子どもたちと過ごしていく中で連続性のある保育ができれば、そして沢山あそびで笑いの多い保育をしたいと思います。



写真や動画、事例などをもとに言葉をされ、とても分かりやすく“あそび”について改めて考える良い機会になりました。

普段何気なくしているあそびでも、子どもたちはそこから色々な事を感じ、学び、考えているんだという事を改めて確言認することができました。毎日保育する中で、“この子は今何を感じているんだろう”“何を学んでいるんだろう”と深く考えずに関わっている事もあったなと反省する所もあり、一人ひとりの姿をしっかりと見ながら関わっていきたいと思います。

今はフリーという立場で色々なクラスに入らせてもらい、様々な年齢の子どもたちと関わる機会があるので、その年齢に合ったあそびや子どもたち自ら“やりたい!”と主体性をもってあそべるような環境構成、保育者の関わり方をひきつぎ学んでいきたいと思います。



## 講演会感想

今回の講演を聴き、子どもたちの遊びの大切さや面白さを再確認できたと思います。箕輪先生のお話を聴きながら普段の子どもたちの遊んでいる様子を思い出し、子どもが自分で自由に遊んでいる時、保育者や大人の想像をはるかに越えた、遊びが行われているのだと思いました。その時こそ子どもの持つ力が最大に発現されると日々の子どもたち様子を見て感じています。講演会で見せていただいたビデオがすごく面白かったです。遊びの中で自然に湧いてくる歌を歌いながら、砂遊びをしている姿を見て、すごく遊びに夢中になっていて、本当にしたいと思っている遊びができていると感じました。ベアーズは子どもたちがいつでも好きな時、好きな遊びができるような環境になっているので、これからやはり子どもたちの遊びを注意して見直し、なぜこの遊びをしているのだろう、この遊びを通じて何が満たされ、何が育っていくのかということを考えながら保育をしていきたいと思いました。

## 認定こども園ベアーズ



## 講演「保育における子どもの遊びと育ち」の感想文

まず最初に、昔と今を比べてこれからの社会で求められる力についての発表があったが、これは子どもたちの将来を考える基本となる部分が大仕事だと感じ、昔を知っている大人たちも時代の流れを考えながら、

どう進めていくか、私たち自身も変えたり工夫していかなければいけない問題だと思いました。その為には、やはり人のコミュニケーションをしっかりととることが必要かなと思います。子どもの良本となる大人たちが伝えていくことを共通理解し合えないと難しいし、今現在の課題でもあると感じました。次に「遊び」についての発表があり、子どもがどんな気持ちで遊びに夢中になっているのか、一番は「楽しい気持ち」が生まれて、友だちとも一緒に遊ぶためのことにつながるのではないかと、そのために、保育者は子どもたちが安心して過ごせる環境や居場所を作っていく必要があると思います。遊びをじっくりと遊びこめるよう、保育室やホール、散歩など環境を見直して、保育者同士で意見を話し合っより良い環境を作ってあげたいと思います。子どもたちの安全や安心できることを一番に考え、工夫して日々の保育に取り入れたいと思います。

参加させて頂き、ありがとうございました。



子どもの遊ぶ心もついでこんなにも意味があるとは  
考えた事も無かったが、保育所という安心して遊べる  
所があり 保育士という子どもに関わってくれる  
人がいるという事が とても大切だと思った。

遊ぶではないが、先日 園庭までやかんでお茶  
を持って行く時、お茶がこぼれ拭いていると  
僕もやりたいとO君が来て拭かせてあげると一所  
懸命拭いていた。'雑布汚ないから お手々洗お  
うね'と言うと拭くだけ拭いて満足したのか  
'手洗って来る'と去って行った。子どもがしたいと  
望んだら 出来る事は経験させると満足し  
伸々と育ってくれるのではないかと思った。  
遊ぶ事の素晴らしさを知った講演でした。



## 講演会を終えて

今回、講演を聞きながら、子どもの生きる力を養う基礎になるとも大切な時期を携わる者としての責任を改めて感じた。

遊び込める環境作りをし、子どもに寄り添い、気持ちを受け取り、思いに共感しながら、一人ひとりに合った関わりをしていきたい。

お話、頂いたことを、今後生かしていき、見直しを行うながら、子どもの状況により柔軟に対応できるように努めていきたいと思った。

また、職員間の共通理解、連携も日々の保育の中でとても大切なと思うので、報告、連絡、相談を行っていきたい。



講演を聞かせて頂いて、改めて「子どもとの関わり方はどうか?」「子どもたちの様子はよく見れているか?」など、自分の保育を振り返ることができた。

特に「褒める」については、褒めて、認めて、自信をつけたり、意欲を引き出したり、自尊心を育てたいと思い、子どもを褒める場面はよくあるので、「褒められようとする子」にしようとして、気をつけなければならぬと思った。まずは一緒に喜んで、楽しんで、共感することを大切にしている。

片付けについては、砂場めがねをしてい子のビデオを観て、玩具や物だけが片付けではないことに気が付かれた。片付けは、物を片付けることだけでなく、わかれがちなので、その子ごりの片付けや毎持ちの切り替えについてもしっかりと子ども一人ひとりの様子を見て、理解していかないと考えた。めがねは夢中にたまって「まだやりたい」「まだ片付けをしたくない」という思いを大切に、一人ひとりに応じた言葉掛けをしたり、待ったりし、強制的にめがねが終わらないように心掛けていた。

やはり、一人ひとりの子どもの姿をよく知り、よく見つめることが大切だと改めて感じた。





## 箕輪先生の講演を聴講して

子どもがいっぱい遊んで大きくなることの大切さを学んだ講演でした。

乳幼児期のあそびは、小学生以降の学習の基盤となる大切な学びであることを、事例や写真、動画などでお話いただき、先生の体験談には、そうそう！とうなづくことがいっぱいあり、とても分かりやすかったです。

私は、子どもに何か質問された時、すぐに“〇〇かな～とか、〇〇じゃない？”などとすぐ答えてしまっていたことを反省しました。今度からは「〇〇ちゃんはどう思う？」となげかけ、子どもの言葉を聞き、心の発達や、家庭環境、内面の読み取りなどを読み解く事も大切だなと思いました。

子どもが真剣に何かに取り組んでいるときは、静かに見守ろうと思いました。

よく子どもが「先生見とってよ」と言いますが、3、4人にいっぺんに言われると、「ちょっと待ってよ」と思っていました。が、「見てるよ～、やってみてよ」と大らかに応えようと思えます。

子どもが、主体的に遊ぶことができる保育環境や、子ども一人ひとりの発達、仲間との関わり、保育士との信頼、などを考え、子ども達の保育をする保育士の専門性を改めて感じました。いつも子ども達の発達を考えておられる先生達ですが、何か目指すものがあり、それについて研究し、検証し結果を出していく。そしてそれを発表することは、みんなが見えるものにもなり、達成感もあり保育力の向上につながると感じました。



今回はとても勉強になった。あそびの中でも、いろんな意味がある  
と分かった。

自由あそびも、禁止事項や制限が多くなれば、一つ一つやる事を保育  
者に確認するようになる。そうすると、子ども自身が楽しめなくなっ  
てしまう。禁止するのではなく、その中で子どもの主体性が尊重されるようなあ  
そびを考えていかなければならないと感じた。

乳幼児期に体を使って色々な体験をしていく事で、想像・思考・言  
葉などの力が見についていく。身体感覚がとても大切なんだと改めて  
分かった。

玩具も、子どもの発達に合わせて用意し、増やしすぎたり減らし  
すぎたりしないよう試行錯誤しながら考えていかなければいけない。

保育者自身があそびを楽しむことで、子ども達も一緒に楽しめたり  
豊かな心にもつながっていくんだと改めて学ぶ事が出来て良かった。



平成27年 子育てひろば'21 講演会感想

演題 「遊びと子ども育ち」

講師 川村学園女子大学准教授 箕輪潤子先生

保育における遊びと学びについて箕輪先生のお話を聞かせていただき、自分自身の育児や家での様子と照らし合わせて深く考えることができました。普段子育てをしている中で疑問に思うことが数多くあり、対応に困ることがあります。先生のお話の中であげられた「自由遊び・子どもの主体性・禁止事項や制限の多さ」「三問の不足」「適度な発達最近接領域」「言試したり、考えたりすること」「想像すること」「片付けについて」それぞれのお話の中であった事例も交えた内容で分かりやすく、私のような保護者としてもとても参考にすることができました。保育園の中であるこのような世界は実は家庭の中にも小さな縮小した世界としてそれぞれの子育てをさかしている家庭でもあることだと思いました。保育士が保育園の現場で感じている悩みや疑問が家庭でも同じように保護者に共通した悩みや疑問であることも教えていただいたように思います。そういうことも含め今後の仕事に生かすことができるよう、保護者の想いをまずはくむことが職員として大切だと思いました。貴重なお話を聞かせていただきありがとうございました。



「保育における遊びと学び」箕輪潤子先生の講演を聴いて

講演会のお話をきいて、あらためて日々の保育を振り返る  
いい機会となりました。

何気なく日々遊んでいる姿には、一つ一つ意味があり、  
それが学びにつながっている。

安心して過ごすことのできる保育者、空間、時間が確保  
されていること。

子どもの発達過程、内面の読み取りを踏まえ、子どもが動く  
環境を準備することで、子どもの充実したあそびが生まれてくる  
ことから、保育の環境の大切さも鬼強になりました。

また、園内研修のやり方も教えていただいたので、皆で  
テーマを決めてやっていきたいと思います。日々の保育に  
追われながらでも、日々の子どもたちの遊びが楽しく満足  
できる保育環境を作っていきたいと思いました。



「遊びと子どもの育ち」の講演に参加して。

1つ1つの事例を呉せて頂く事で、とてもわかりやすく入った講演会でした。

「遊び」とは本来子どもにとって大切な事だということを改めて感じました。

乳幼児期には、自分の心身の感覚を通じた様々な経験が大切であり、その経験が学びにつながっていく。その為に、今だけを知るのではなく、小学校、中学校、...等先の事を考え、遊びの中で充実した経験をさせてあげ、

良い環境を整えるのは、子ども達が充実した遊び(没頭・挑戦)が出来る様にしていかねばならない。

（子どもの心が動く環境を準備する）

（安心して過剰な心配をする保育者、空間・時間の確保出来る事）

（安心して過剰な心配をする保育者、空間・時間の確保出来る事）

こういう環境を整えるには、良い遊びだけではない、子どもと同じ

目標を作り、どの様に子どもが楽しんでいくか、何に没頭・挑戦して

いくのか、結果が大切ではないかと考えました。

充実した遊びが出来た時、自然に片付けも出来るのではないかと思います。

これから、いろいろ学びながら（子ども達からも学びながら）

レジャーと子ども達と向き合っていきたいと思っております。

講習会に参加させて頂きありがとうございました。



## 保育における遊びと学び

保育の講演会は初めて、今現代に子供に求められている事は 21世紀型スキル、OECD、生き力かなど多くの事を求められている事に驚いた。

だから多くを求められている中でも遊びとは何かを獲得するためにやるものではなく遊びそのものを楽しむためにやるものに関心、求められている事が多々あり中で、両立するのは大変だと思った。

一は遊びを続けられる子どもに、それは心の切り替えを上手にでき、人との関わりを円滑にする。

これを子供の時からずっと学んでいかないとできない。保育とは大変で大切なものだと講演会を聞き深く思った。



石川あそびの環境で、様々な事例を見せてもらい、とても分かりやすく子どもたちのあそびについて学ぶ事が出来ました。今まで、石川あそびの様子を見ていて、"型抜き出来るようになった"、"お皿が作れた"などその程度の見方しか、正直出来ていなかったのですが、石川あそび1つを取っても色々な視点で見ることが出来るのだな、と感じました。

室内環境でも、子どもたちが主体的にあそぶにはどうしたらいいか... 日頃から小送りでいた事だったので今回分かりやすく教えていた点とても参考になりました。中でも、印象に残っているのが"<sup>(子どものあそびで)</sup>少し難しいくらいが丁度いい"という言葉です。難かしすぎても出来ない、簡単だと面白くないし、子どもたちの発達段階に合った玩具選別の大切さをとても感じました。今の保育室では色々な玩具が沢山出来ている状態があるので、少し減らしてみたり、入れ変えてみたり... 色々変化を付けながら、保育環境を整えていきたいと思いました。



箕輪先生の講演を聞かせていただき、子どもにいろいろな経験を  
させてあげることが大切だと思いました。

遊びの中に学びがあり、子どもにとって遊びは真剣であるということ。  
保育の質の向上が求められ、教育の視点から何かを身につけさせなければ  
いけないと考えてしまいます。しかし、子どもは遊びの中で身体で感じた  
こと、経験が想像を生み学びにつながり、いくことがわかりました。  
子どもがやりたいと思う言葉かけや環境づくりも大切だと思い  
ました。

私は子どもに思いやりのあるじ豊かな人に育てたいと思っています。  
そのために様々な想像ができる経験、遊びを自分自身も楽しみ  
ながら考えていきたいと思っています。





(講演会の感想)

今回の講演を聞き、子どもにとって“遊び”がいかに大切であるか、改めて気付かされました。また、子どもが遊ぶ中で、まず子どもの安心できる“居場所”“安心できる場所”を作ってあげることも保育者の大切な役割であると感じました。“片付け＝片を付けること”という言葉も、とても印象に残りました。片付けの時間、子どもの片付け方はそれぞれに異なり、あそびの延長に見えても、その子どもにとっては“片を付けている”という考え方を知り、子どもの姿を見守ることの大切さも感じました。日々の保育の中でも、子どもたちが主体的にあそべるよう、環境作りも工夫していきたいと思いました。



子育てひろば21講演会 感想

演題「遊びと子どもの育ち」

「保育における子どもの遊びと育ち」

川村学園女子大学 准教授 箕輪潤子先生

この度の講演会で 生きる力の大切さを先生の話の節々に感じられ、  
子どもが自発的・意欲的に関わる環境をどのように提供するのか。

乳幼児期にふさわしい体験が得られるようにするには、保護者がどのように  
関わっていくのか。写真やビデオを通してわかりやすく講演をいただきました。

保育者の必要以上の声掛けが子どもの育ちを妨げることもある。

しかし体験をするためには、一緒に活動し、楽しんでいく必要も  
あるように感じた。子ども一人ひとりの成長過程を把握しながら

将来を担う子ども達の育ちを見守り、一緒に成長していけたらと思う。

講演会後の勉強会では保育室の環境や園内研修会について  
援助をいただきました。室内環境では死角ばかり意識する  
ため、子どもの行動を優先できていないこともあるのではないかと。

しかし、死角は危険もあるのでと考へ、環境を整備してきていたが、

子どもの居場所、遊びやすい環境を1番に

考へていかねばいけないことを改めて教えていただいた。

子どもが主体的になる保育をこれから考へたいです。



## 〈講演会の感想〉

今日の講演会は、子どもたちがあそんでいる姿の写真や動画を見ながらの講演で、とてもおもしろく、わかりやすい講演会でした。特に、一番最初の、男の子が砂場あそびをしながら、自然とうたがこぼれてくる動画を見て、砂場あそびの中でも、子どもの砂に対して足のつき方はどうか、ゆび先はどうか、砂を入る時と砂をさかして見立てた時の指先の使い方が違うなど、この子が、砂に関わることで、砂あそびに関して、どう感じているのか、とても良くわかりました。また、「子どもは、何かを身につけるためにあそんでいるのではない。あそびこそ自体が目的である」という内容にとても興味深く感じました。自由あそびも禁止事項が多くなると、「遊び」ではなくなると。「先生これいい？」「これやりたいけど…」と、一つ一つ大人に確認するようになるという話や、遊べない子どもの背景には必ず理由があるという話を聞き、今一度保育を振り返る必要があると痛感しました。子どもにとって「自分がココにいて安心する」「みてみて」と見てほしい相手がいるという安心感をもてる保育者となり、環境も整え、遊びの中の学びも促しながら、子どもと共に保育者自身が子どものあそびをおもしろがり、楽しむというこころを実感しました。



今回、箕輪先生のお話を聞かせていただき、  
とても勉強になることがたくさんありました。

その中でも、特に印象に残ったこととして、「遊びの考え  
方」についてです。

子どもにとっての遊びとは、遊ぶこと自体が目的であ  
り、遊びによって何かの発達を促したりするわけじゃないと  
いうことを聞き、そういう考え方もあるのだなと思いました。

又、子どもが自発的・意欲的に遊ぶためには、保育者の  
遊びの環境整備がとても重要だと感じたし、どこまで子  
どもたちと関わり、遊んでいくのかを考えると必要があるなと  
思いました。

最後に、一つ気になったこととして、未満足感についての  
片付けを通して育てたいことは何かということが気になりました。



箕輪先生の講演を聴いて、子どもの遊びについて考えることができました。  
先生のお話や映像から、子どもたちにとっての、様々な遊びの形が  
見つけられた。一対一での関わりを求めていたり、子どもたち自身の力で  
「何かを作りたい」という思いや、自然と気持ちが歌や動きに表われる  
など、子どもたち一人ひとりに違った形での遊び方があり、子どもの  
集中力や想像力の豊かさに驚きながらも、保育者としてどんな遊びも  
大切にしていきたいと思った。片付けについても、今まで「使ったもの  
を片付ける」とだけ思っていた。しかし子どもにとっては、ただ物を片付ける  
だけではないということに、片付けにはこういう意味が含まれて  
いたのかと、とても勉強になった。今後保育の中で、子どもが  
遊びに「片をつけている」姿に気付き、見守っていきたいと感じた。



箕輪潤子さんの講演会に参加して、子どもにとっての、  
環境の大切さを改めて感じた。“子どもにとっての遊びは  
遊ぶこと自体が目的”という言葉聞いて、子どもが  
思いやり遊べる環境を作りたいと思った。

棚 一つでも子どもたちのことを考えれば、色々な案が出て  
くるし、たくさん工夫ができる。箕輪さんが言っておられた  
ように、棚の奥の板を無くし、筒抜けにすることで、保育者  
が棚の奥にいる子どもの様子が見える。また、子どもたちの  
関わりが隣だけでなく、対面でも関わることもできるようになる。  
保育室にある、一つ一つの物をこれから考え、見ていきたいと  
思った。

また、子どもたちとの関わりについて学んだ。子どもの遊ぶ  
姿の動画を見て、とても可愛らしいと思った。子どもの遊びの  
要望はできるだけ叶えたいし、とても集中して、自分の世界に  
入る子どもの姿を見守っていきたい。また、子どもに対する  
言葉かけ、受容、共感を大切にしたい。子どもたちの  
大切な時期に関わる保育者として、  
一つ一つの環境、言動など、常に  
アンテナをはり、関わっていきたく  
思う講演会であった。



## 「子育てひろば」21 講演会感想文

今回の箕輪潤子先生の講演会では「遊び」について話され、自分はホールで遊んでいる子どもは見たことがあるが、園庭で遊んでいる姿を見たことがなく、他の園の子どもですが、様々な遊び方をしており、その楽しんで遊ぶ姿にこちらまで楽しい気持ちになりました。

また、子どもたちの想像力の高さについても驚きました。自分で砂を使った遊びの中で歌を歌う、砂遊びの中でも様々な形の遊びをしている姿はとても生き生きとしていました。また、片付けの場面では使った道具だけでなく、遊んだ砂場がデコボコしていた所を平らにしている姿に、片付けの考え方もいろいろあること気付かされました。

この講演を受け、ホールで遊んでいる子ども・園庭で遊んでいる子どもも見つ、子どもたちの気持ち、心を少しでも学んでいきたいと思います。



## 子育てひろばの講演会に参加の感想

前半・後半ともに映像や先生の体験談などもあり、わかりやすい言葉で表示されていた。丁寧な口調であったり、聞きやすく、自分も整理しやすかった。

初めの「21世紀型スキル」は、まさに現代社会において子どもに育してほしい能力を感じると同時にそれを伝えるための自身も持っていないのではないかと、育たなければならぬこのように感じ、新たな課題がいくつか思い浮かぶ。今後の保育、仕事、生活の場を考えた上で、いきたいと思いたい。

講演を通じて他にも自分自身の言葉のかけがえ、伝え方（遊びの中の）など、子どもの内面やその動作の意味などへの理解がまだまだ不十分だと反省している。ブロックやぬり絵、粘土など出来上がった作品を対しての変化や上達度への意識を怠っていないが、作りプロセスの変化に気づくことができていない。道具の変化、扱い方、持ち方など子どもの変化に気づくポイントがあったら、今後はこちらの意識をいざなうと思いたい。

集団生活の中の個の変化に気づいていくことは難しいので、職員同士で連携、刺激し合ったり、たくさんの方の視点をもって保育をしていきたいと思います。





「保育における遊びと学び」 箕輪潤子先生のお話を聴いて

21世紀の社会で求められている力は、コミュニケーション。対人関係の力、リーダーシップの力を押し押しあげていく。生きる力とは、自分の持てる力を発揮しつつ、人と調和をしながら柔軟にたくましく生きて行く力が求められている。とお聞きし、改めてそうだなと痛感した。そして、保育の課題として話された、教育的側面への関心が向けられ保育の質の向上と小学校の段差については日々感じていることだった。子どもの理解という保育園では、一人一人の心情、経験、を踏まえて考えるが、小学校では、目標に向かってどれだけ到達したかと考えられ視点が違うと話され、そうそうと強く思った。やはり、先生がおっしゃるように、改めて、乳幼児期に子どもの中に何を育てていくか各園が問い直し、実践していく時であると感じた。

遊び、遊びにおける学び、保育と遊び等数々のポイントを映像と共に伝えて頂いた。その中で私は、子どもと保育環境（ひと・モノ・こと）との関わりの中で、子どもの心が動くところに「遊び」が生じている。そして、遊べない子どもの背景には必ず理由がある。と話されドキッとした。やはり、保育者一人よがりになっていないかな、子どもの表情はどうかな等振り返りや反省がないと進歩もないない。自己研鑽を重ね保育の質の向上が大切、何よりも保育者自身が大切な保育環境であるということを再度学ばせていただきました。

